



令和5年度 事業報告

社会福祉法人 京都総合福祉協会

令和5年度 の活動と成果



1 洛西ふれあいの里更生園における 心理的虐待事案の発生と取組



2 洛西ふれあいの里施設 再整備



3 給付費・就労支援事業収入等の状況



4 利用者を取り巻く環境の改善に向けて

- (1) コロナ5類移行後の各事業所の活動取組
- (2) 居住や活動場所の環境整備
- (3) 地域とのつながり



5 職員を取り巻く環境の改善に向けて

- (1) 職員採用、定着に向けた取組
- (2) 退職の状況
- (3) 研修
- (4) リスク管理
- (5) ICT活用した取組



6 専門性を生かした最良の支援を目指して

- (1) 各事業所での虐待防止に向けた取組
- (2) 各事業所での支援実践

1 洛西ふれあいの里更生園における心理的虐待事案の発生と取組

(1) 内容

令和5年12月14日、他利用者の居室へ入ろうとする自閉症の利用者を制止する際に、職員と利用者が揉みあいになり、職員が心理的虐待にあたる発言を行った。

(2) 対応

- ・当該事案発生時、向かいの居室にいた他職員がかけつけ、状況を確認し対応。
- ・対応職員より管理者に報告。/施設長より事務局に報告。/当該職員よりご利用者へ謝罪。
- ・更生園より、京都市障害保健福祉推進室へ報告。
 - 障害者の尊厳を損ねる発言であることから、心理的虐待と認定。
- ・事務局より、「きょうと福祉人材育成認証制度」を所管する京都府へ報告。
 - 「きょうと福祉人材育成認証制度」の認証停止。
- ・懲戒処分の通知（当該職員：減給、施設長：けん責＜理事長口頭注意＞）。

(3) 取組

【更生園】

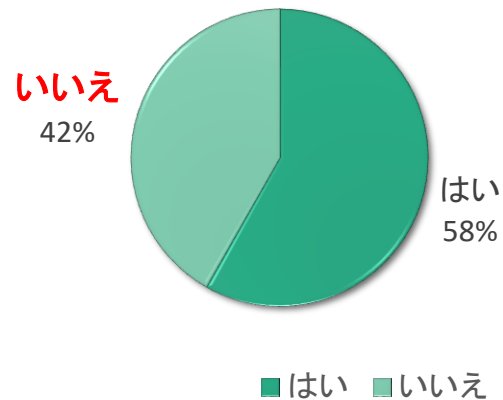
- ・産業医を交え、他職員の心のケアを目的とした職員意見交換。
- ・更生園の虐待防止員会で第三者委員を交え、更生園の環境と事案発生との関連などについて職員意見交換（例、利用者間トラブル防止に向けた住環境改善の必要性）。
- ・更生園の自閉症委員会で専門家を講師に迎え、特性理解の学習会実施（当該職員も参加）。
- ・当該職員の虐待研修への参加。
- ・家族懇談会で事案説明をしたうえでの意見聴取。



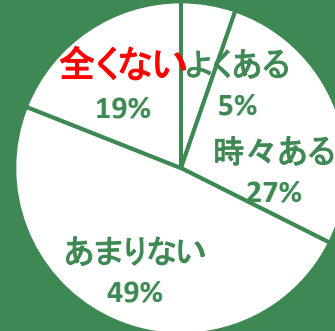
【協会全体（虐待防止委員会として）】

非常勤職員含む全職員に職員セルフチェック実施（469名の職員から回答（回答率78.2％） 下記に結果抜粋）

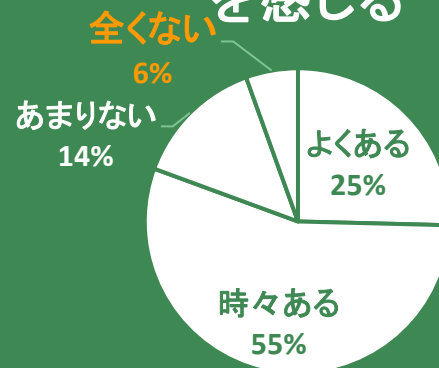
厚労省の手引きにある
「心理的虐待」
の例示を読んだことがあり
意識してきた。



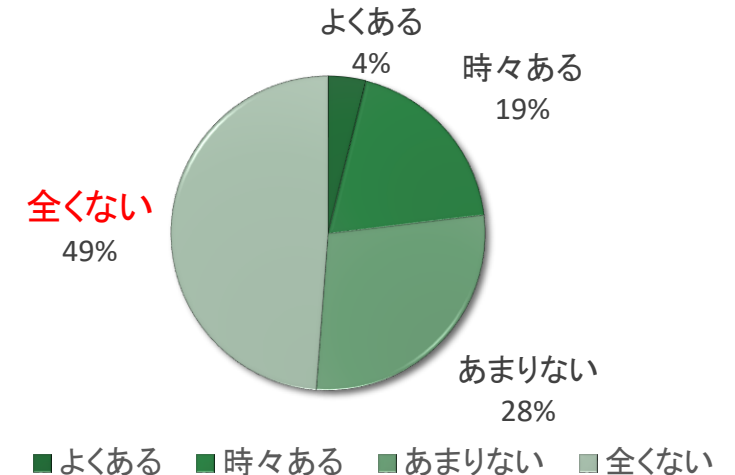
支援について一人で抱え込んで
しまう。しんどさを吐き出したり、
タイムリーに相談できていない。



利用者への関わり方で難しさ
を感じる



利用者呼び捨てやあだ名、
子どもでないのに子どもの
ような呼称で呼ぶ。



①厚労省のガイドラインの確認。虐待の例示はすべての職員に周知する。

②支援の基本姿勢として、成人の利用者の呼称を「～さん」とする。語尾は「～です」「～ます」となるよう丁寧な言葉を用いるようにする。

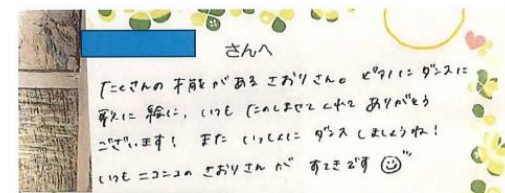
③「利用者へのかかわり方の難しさ」について、事業所、利用者の障害特性によって異なるため、虐待に結び付く可能性があるという観点で、どのような難しさがあるのか、各所属で意見交換し、適切な支援を提供できるよう専門的知識やスキルの取得・向上、支援環境の整備など改善に向けた具体的な取り組みについて協議し実践する。次回、虐待防止委員会で報告する。

更生園での「グッジョブカード」「にやりほっと」など好事例も参考にする。

④それぞれの事業所でセルフチェックを継続して実施する。協会全体としてのセルフチェックは、今回の回答の変化を確認する意味もあり、2025年2月に同じ内容で実施する。

⑤職員同士の連絡や連携の手段として、インカムの導入を検討する

(入所施設中心)。



2 洛西ふれあいの里施設 再整備



- ・京都市指定管理期間満了日の翌日の令和5年4月1日より、当協会が施設を所有しました。
「**洛西ふれあいの里福祉施設再生事業**」として、老朽化した施設の改修や設備の更新に取り組んだ。
- ・第1期工事の療護園及びデイサービスセンターの屋根、外壁等改修工事が計画どおり進ちょくしており、令和6年6月に竣工する予定。
- ・令和6年度は第2期工事（授産園の活動室新築、デイサービスの浴室棟の増築、療護園及び更生園の既存施設改修）に着手する予定。

洛西ふれあいの里福祉施設再生事業第Ⅰ期工事（屋根、外壁等大規模改修工事）

施工前



施工後



【施工に関する評価】

- ・ 施工前の屋根は、アスファルトシングル葺きのめくれた箇所を補修しながら利用していたものですが、この上からカラーガルバニウム鋼板の縦葺きをカバー工法で施工することで、雨漏れを防止し、今後の長期使用を目指すものです。
- ・ 施工前の外壁にはひび割れ等が発生し雨水の侵入が懸念されたことから、ひび割れ補修後に弾性のある塗装材を使用することで、外壁から雨水の侵入を抑制するものです。
- ・ 施工後の屋根は、縦葺きとすることで、シャープな表情になるとともに、外観は山麓部にマッチした色合いで塗装し、リニューアルしました。これらは景観規制にも適合しています。



3 給付費・就労支援事業収入などの状況（令和4年度比）

生活介護事業所	2.0%増	高齢通所介護事業所	3.1%増
居住系事業所	2.1%増	就労支援事業所	8.1%減
居宅支援事業所	2.9%減	児童通所施設	5.2%増
相談系	3.4%減		
就労支援事業収入	29.7%増		

当期活動増減差額（事業活動計算書）

△55,044千円（人件費＜主に法定福利費＞や北山ふれあいセンター修繕費など事務費が増加したが、物価高騰対策、食材費高等対策補助金や有価証券売却益などの臨時収益があったため、経常増減差額は△55,044千円の赤字にとどまった。



4 利用者を取り巻く環境の改善に向けて

(1) コロナウイルス感染症の5類感染症移行後の各業所の活動取組

<入所、グループホーム>

- ①前年度までは、コロナ禍で、社会とのつながり、活力や心身の不調は深刻であった。令和5年度は 各種行事の開催、外出支援の充実、週末帰宅、家族等との面会などを通じて、生活の質や健康を取り戻していく支援に努めた（入所施設）。
- ②利用者の希望により、YouTubeプレミアムの導入、麻雀台の修繕、出前利用なども実施（療護園）。
- ③栄養士と協力し、ミックスジュース作り、お菓子パーティー、すずかけのさつま芋を使った芋入りホットケーキやモンブランケーキ作り、忘年会、新年会などのイベントを実施した（更生園）。
- ④自己表現の場である音楽や芸術活動に参加する頻度を増やした（大原野の杜）。
- ⑤3月に個別懇談会を実施。30名のご家族、後見人が参加。一年を通じて撮りためた写真スライドを上映した（大原野の杜）。
- ⑥日帰り旅行レクリエーション（東京ディズニーランド、USJ、鳥取砂丘）を実施した（GH北部）。
- ⑦自粛していた行事（バーベキュー、らあ祭、カラオケ大会）を再開した（GH西部）。
- ⑧ふれあいの里診療所では、入所施設と一部の通所事業所の利用者及び職員に対して、計532件のコロナワクチン接種を行った。



夕涼み

スイーツ作り



ハロウィン



USJ



鳥取砂丘

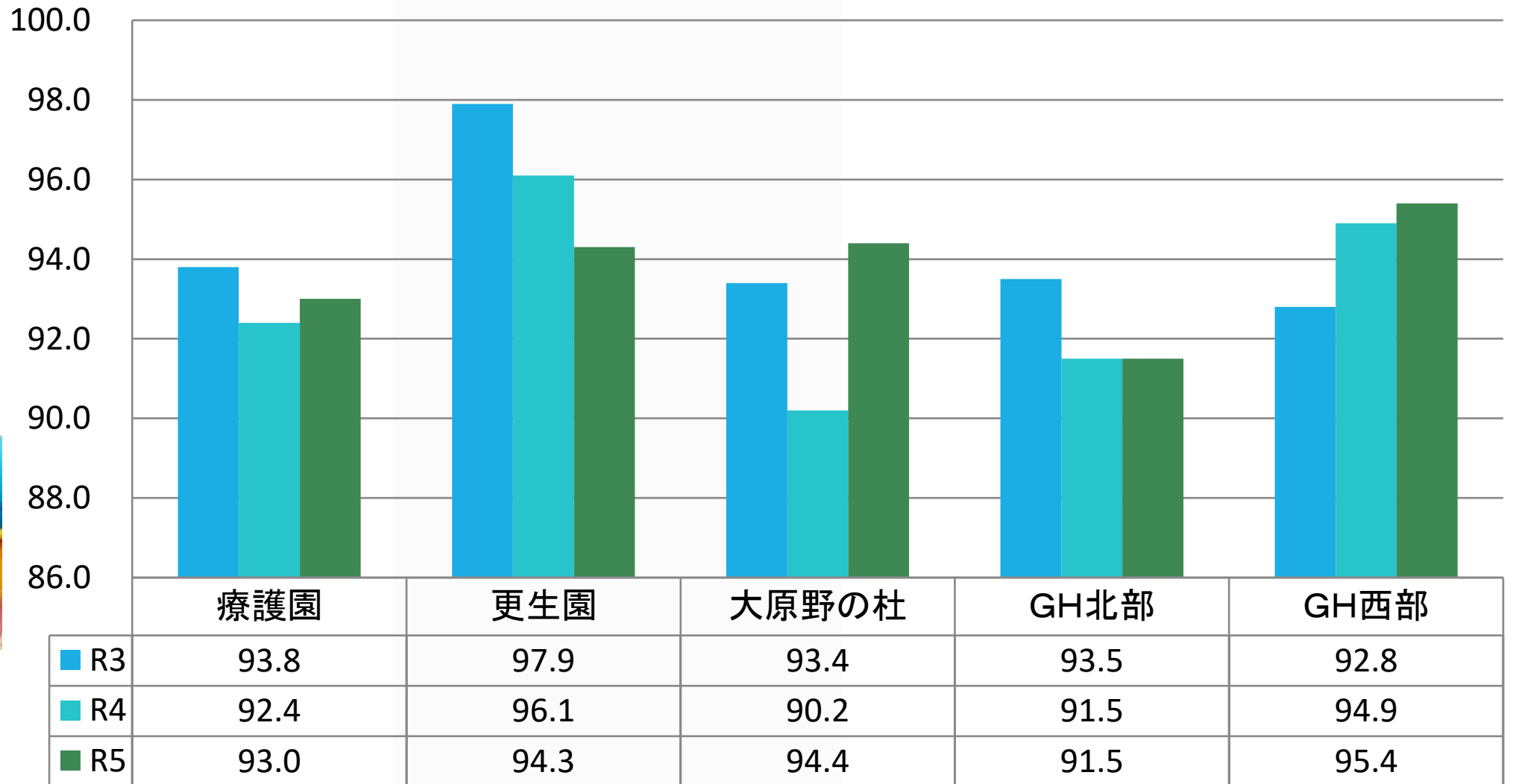


日帰り旅行



居住 年間平均稼働率 (%)

(入所施設支援、グループホーム)



<通所>

①作業班ごとに、外出や季節ごとのイベント（ハロウィン、クリスマス）を行った。秋には、9つの小グループに分かれて旅行（天橋立など）を実施。また、利用者ご家族と過ごす忘年会を開催し、スライドショーを見て一年を振り返り、抽選会など楽しい一時を過ごせた（授産園）。

②コロナ明けが鮮明になり、出店頻度が増え、31件の出店販売イベントに参加した（花水木B型）。

③数年ぶりに、「新大宮商店街夏まつり」が開催され、「さくさく工房」も出店をした（紫野授産所）。

④コロナ禍以降ではじめて、利用者OB会が開催でき、ホテルバイキング企画に14名の参加があった（桂授産園）。

⑤療育内容もクッキングや園外への外出など活動の幅を広げることができた。他、日々、子育てを頑張っておられる保護者への支援として、音楽鑑賞会を初めて開催した。職員2名と保護者1名によるトランペットやフルート等の本格的な演奏が保護者の胸をうち、張り詰めていた思いが緩む時間となった（ポッポ）。

⑥茶道教室、書道教室の他、音楽演奏のボランティアの活動再開に伴い、3ヶ月に1回程度音楽会を開催した。また、健康麻雀講座を新規で開始した（通所介護向日葵）。





音の風セタコンサート

きみいろ 音楽活動



USJ



ポップ 音楽会

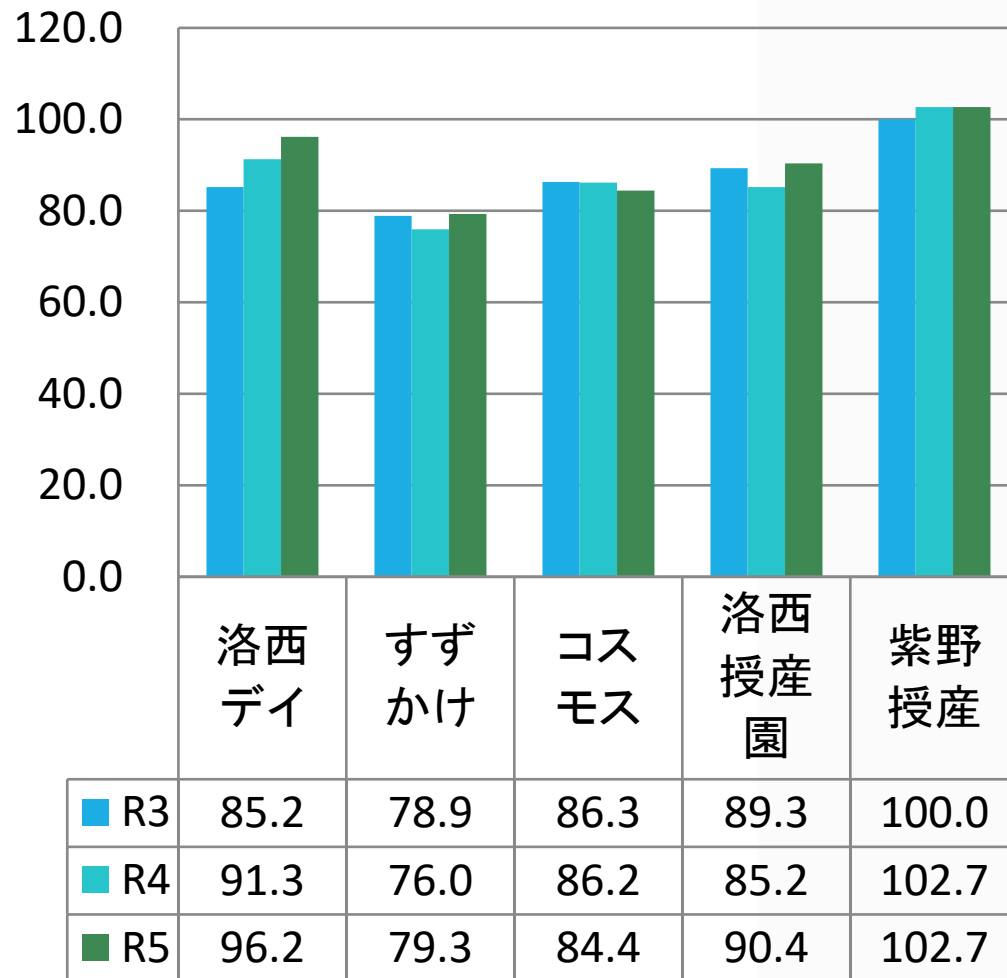


健康麻雀講座

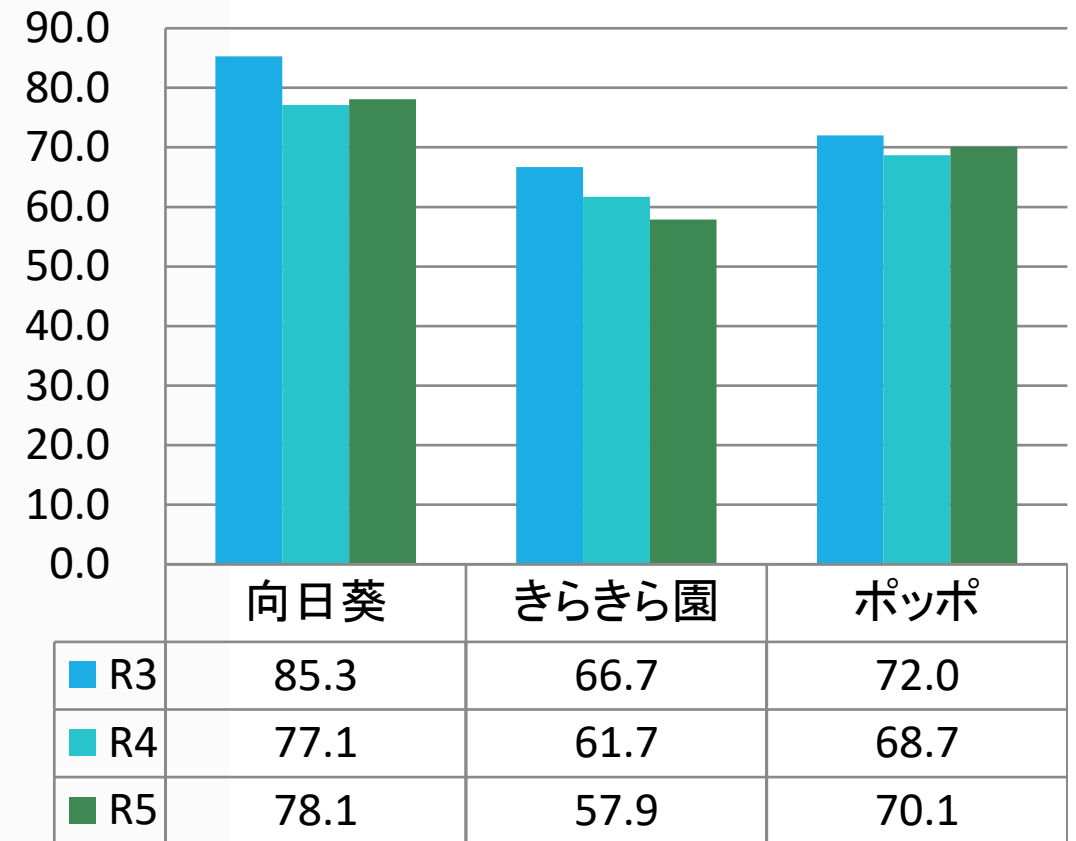


北区大宮夏祭り

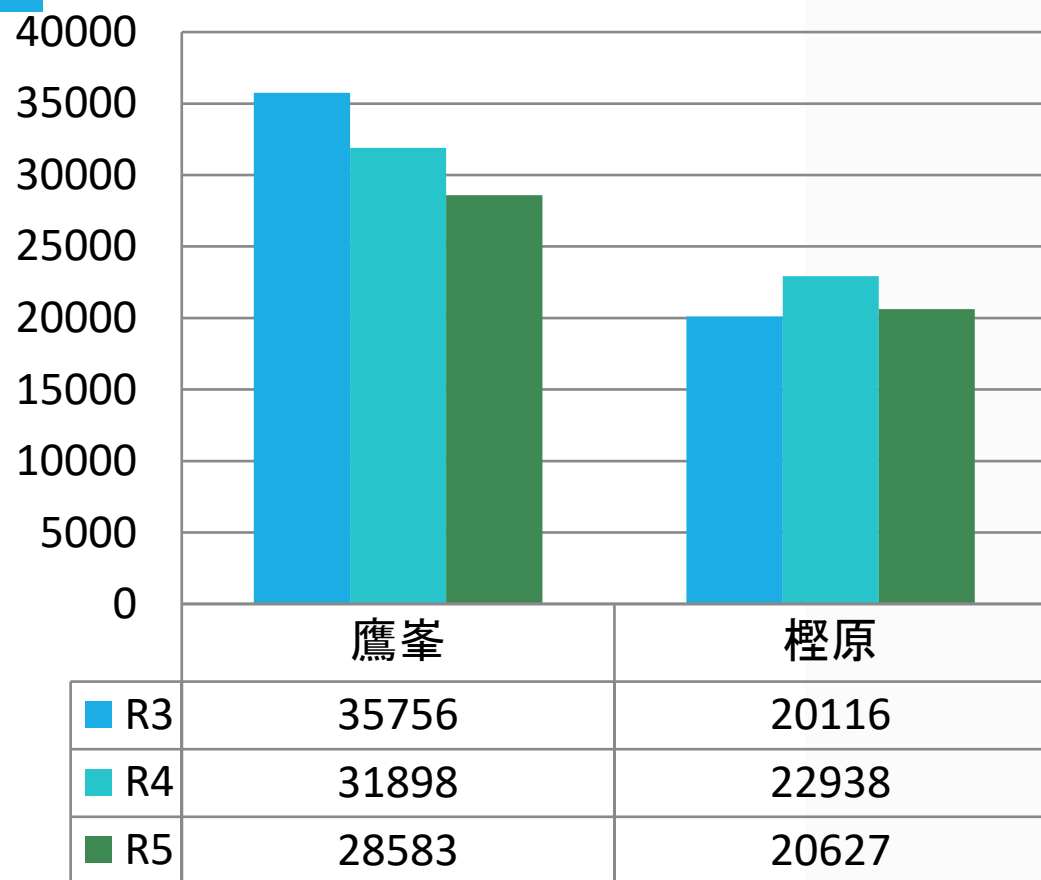
生活介護 年間平均稼働率 (%)



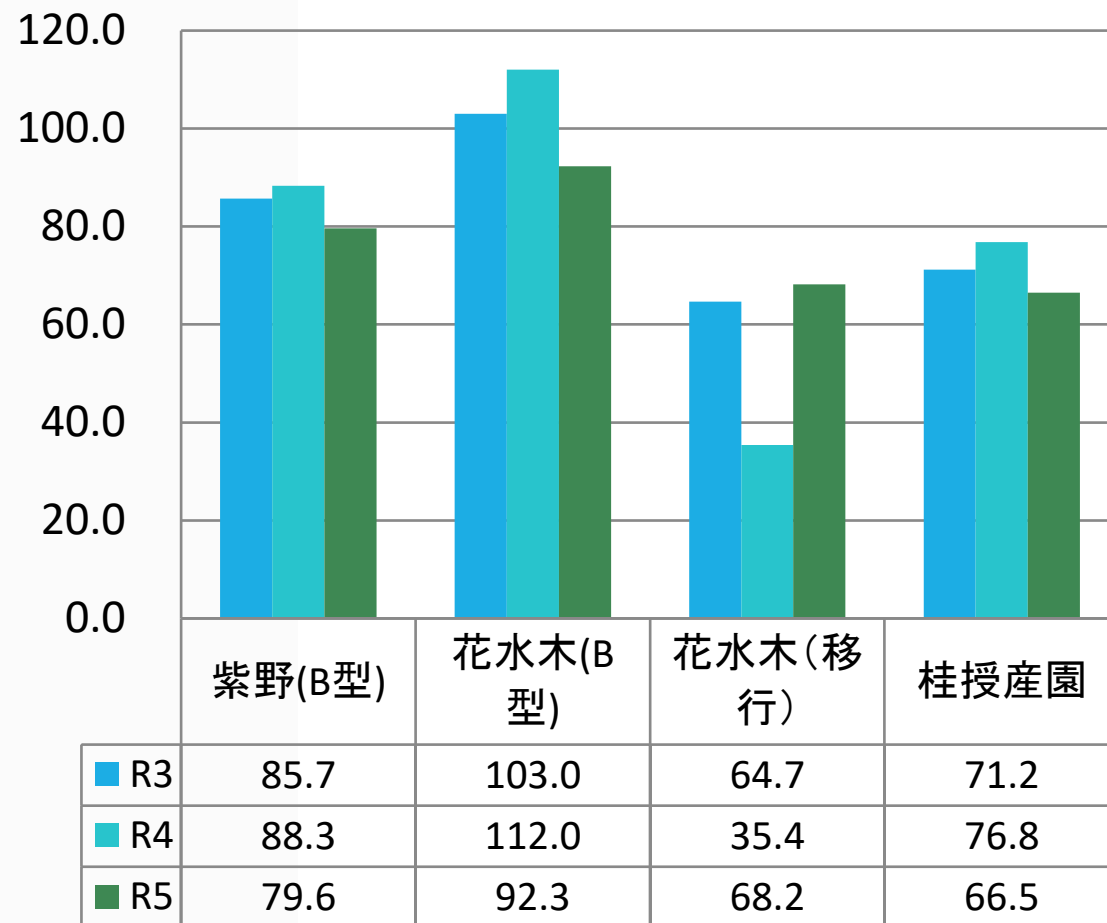
高齢、児童 年間平均稼働率 (%)



居宅 年間支援実績（時間）



就労系 年間平均稼働率（%）



100%

100%

A group of people are seated at tables in a room decorated for a Christmas event. A large painting of a Christmas scene is on the wall, and a man in a white shirt is standing near it. The room has a festive atmosphere with decorations and a warm light.



A group of people are seated at tables in a room decorated for a Christmas event. A large painting of a Christmas scene is on the wall, and a man in a white shirt is standing near it. The room has a festive atmosphere with decorations and a warm light.



(2) 居住や活動場所の環境整備

① 洛西ふれあいの里福祉施設再生事業

洛西ふれあいの里再整備に向けては、前述2のとおり、協会の所有施設として、利用者が暮らしやすい環境整備に向け、新たに「ふれあいの里担当部長」を配置し、取り組んだ。

② グループホーム西部の住環境整備

高齢者対応ができるグループホームのバリアフリー化と狭隘な事務所環境の改善に向けて、前事務所と同じ町内で約100m離れた場所に、1階が事務所、2階がグループホームを建て貸して建設。令和5年8月に移転し、「檜原ホーム5」を開設。

③ サービス提供持続化事業

北山ふれあいセンターの外壁、屋根等の大規模改修工事に取り組み令和6年3月に竣工した。



【施工後の評価】

- ・ 北山ふれあいセンターについては、外壁タイル貼りの落下が懸念されることから、タイル貼りの表面を打診する調査を行い、浮き等の可能性がある個所について、穴あけ、接着剤注入の後にピンで封入するとともに、浸透性塗料を塗り、雨水の侵入を抑制することで、落下の防止を行いました。
- ・ 屋根金属板及び外壁吹付の部分については、劣化の進行を抑えるため、塗装材を塗装することにより、長期の使用を可能にしています。
- ・ 景観規制については、適合しています。

④ かがやきの移転

京都市リハビリテーション行政の基本方針に基づく、京都市リハビリテーションセンター、京都市こころの健康増進センター、京都市児童福祉センターの3施設一体整備により「COCO・てらす」が竣工。かがやきは令和6年1月に移転した。

⑤ その他施設の環境整備など

ア 新たに、特殊シャワー浴槽「araeru（アラエル）」を導入。浴槽に入らなくても体が温まりリラックスしていただくことができるようになった。「体があったまる、肌がツルツルになる」と好評（大原野の杜）。

イ キュービクル式高圧受電設備の更新、ファンコイル式エアコンの室外機修理、厨房エアコンの更新（療護園）。

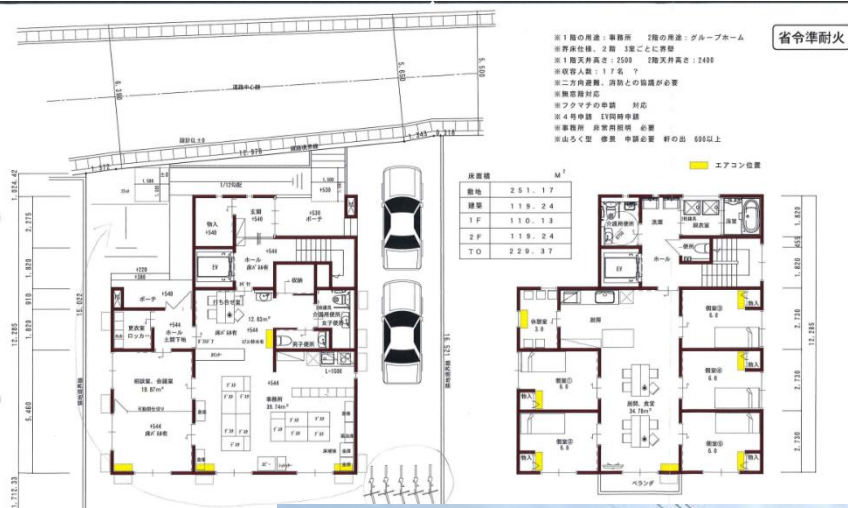
ウ 1階女性棟の廊下・階段・2階廊下の壁紙、居室の扉や壁、食堂アコーディオンカーテンの修繕（更生園）。

エ トイレ扉、給湯器の修繕（洛西デイ）

オ クリーニング用ボイラーの交換、火災報知器・非常用発電機交換、館内Wi-Fi工事（授産園）。

カ 4階フロアーの床の修繕、給湯器の修繕（コスモス）。





「COCO・てらす」が竣工。かがやきの移転。

バリアフリー化のグループホームと事務所が竣工



(3) 地域とのつながり

① 新たな公益的な取り組みとして、地域の子育てに悩む就学前のご家族や子どもを対象に、「きらきらパーク」を年4回開催した。京都女子大学の教授と学生ボランティアに協力いただき、子どもはきらきら園で遊び、保護者は子育て相談ができる取り組みとなった(きらきら園)。



② 西京区社会福祉協議会、桂川ロータリークラブ共催の「ボッチャ」大会へ参加した(更生園)。

③ 秋の療護園祭りのイベントでは、ボランティア団体の京都健康マジックに運営協力をいただいた(療護園)。

④ 紫野包括センターの「大人の寺子屋」と題した企画を店舗の前庭で行い、地域の方々との交流の場を設けることができた。第1回目は、アコーディオンの演奏を実施した(紫野授産所)。

・近隣の商店・住民などで作る町おこしのつながり「北大路テラスネットワーク」に継続して参加した(紫野授産所)。



「日本畳楽器」
によるバンド演奏



「ボッチャ」
の交流

・北山ふれあいセンターまつりを4年ぶりに開催し、約400名に來場いただいた。ステージでは、ノートルダム女子大学の管弦サークルに参加いただき、交流の機会に（北山ふれあいセンター事業所）。

・桂坂地域で開催する秋祭り（オータムフェスタ）では、福祉啓発のコーナーを設け、利用者の作品展示を行った（洛西ふれあいの里各施設）。

・「まいふえいばりっと展」を開催。利用者がデザインしたTシャツの販売が大好評であったので、第二弾では、利用者の足型を花びらに見立てた花をデザインにしたTシャツを作成した。こちらも、來場された利用者家族やセンター事業所職員の皆さんから好評をいただくと共に交流することができた（コスモス）。

・近隣保育園とのクリスマス会は中止となったが、活動で作成した紙すき商品を園児へのプレゼントとして保育園へ届けた（洛西デイ）。

・ケナフ栽培から紙漉き体験までを地域の小学校2校との交流学習として各5回実施。春の種まきから植え替え、枝打ち、刈り取りと順次行い、最終の紙漉きまで一緒に実施することができた。長年継続しているため利用者も民生委員の方々と顔見知りとなりスムーズに言葉を交わす様子も見受けられた。（大原野の杜）。



- ・ふれあいの里診療所では、近隣福祉事業所9か所に対し284件のインフルエンザ予防接種を公益的取組として昨年度につづき継続できた。
- ・葵児童館のはなまる広場に月に1回参加し、子育て相談に継続して取り組んだ(ポッポ)。
- ・HOP農園では、児童館の子どもたちに芋掘りをしていただいた。また、福西商店街では様々な作物の無人販売が好評であった(すずかけ)。
- ・洛北高校附属中学校2年生(40名×2クラス)に対して介護疑似体験の講義及び実習を行った。高齢者の身体的特徴や心理面に関する講義と実際に高齢者の側で立ち上がりや歩行介助、車いすの操作などを体験頂いた(向日葵)。
- ・研修室の無料貸室(自立支援協議会・地域利用)、調理室(配食ボランティア)・車いすの貸出を行った(北山ふれあいセンター)。



第100回 さくさく市



ベルマークを寄付



実習生を受け入れ



介護疑似体験



コスモス・まいふえい
ぱりっと展



桂坂住民との交流
オカリナ演奏・紙芝居



桂坂保育園との
クリスマス交流会

桂坂オータムフェスタへの出展



5 職員を取り巻く環境の改善に向けて

(1) 職員採用、定着に向けた取組

ホームページ 内定者交流会
刷新 と



求人サイトの
リンク

・ホームページを

全面リニューアル

・インターンシップサイトの
充実（学情→マイナビ）

・協会パンフレットを2月

に刷新

・内定者向け交流会
を積極的に実施。

・学習キットを活用し
た採用前学習により
内定辞退防止や
採用前の仲間作りを
強化



年齢別保障
初任給制度



・経験者採用に関して
前歴を加算してもなお
初任給が低位に止ま
る高等学校または、短
期大学、専門学校の
卒業生を対象にした
年齢別保障初任給を
令和6年度採用者か
ら導入

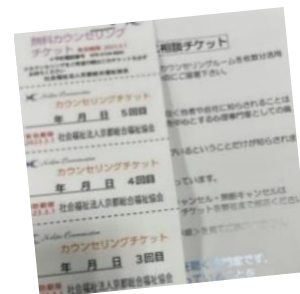
メンター制度、
外部相談窓口



・対話（縦ではなく、
他部署・斜めの関係
作り）

・メンタルヘルスの外部
相談窓口の継続

・カウンセリング23件利用



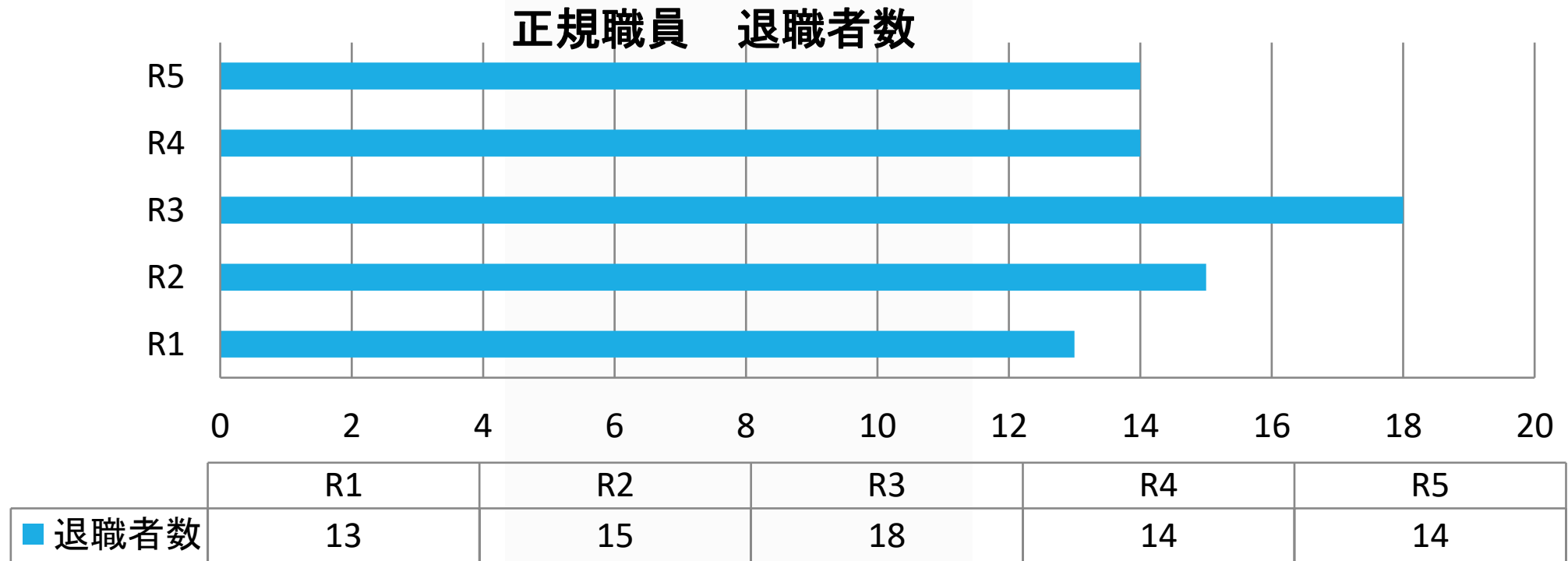
統括安全衛生
委員会の検討



・メンタル不調時の
初期対応や休職から
の復職プログラムの統
括や全事業所での衛
生活動の高位平準化
に向けた統括安全衛
生委員会立ち上げに
向け、保健師と連携し
準備。令和6年度の
開始を検討。

(2) 退職状況：14名（うち定年退職3名のうち2名が再雇用職員へ。）

正規職員全体の6.4% ※正規職員218名（令和5年度当初）



退職理由	転職・転居	5名
	環境不適合	3名
	体力・精神面の負担	2名
	休職中	1名
	定年退職	3名

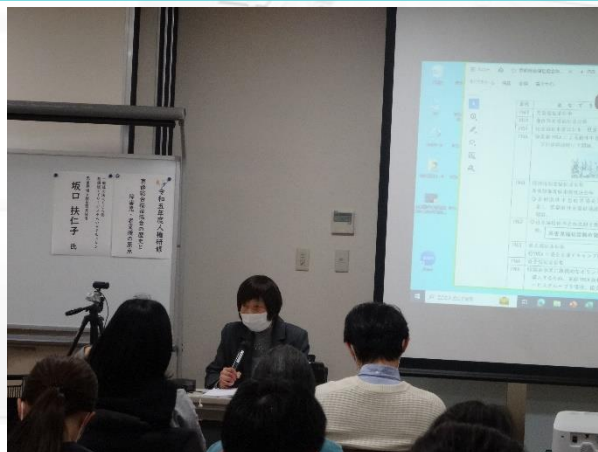
(3) 研修



共通分野研修17回・196名
専門分野研修 2回・177名



新任職員研修



人権研修



実践発表会



② 2年目職員研修



③ 主任級職員研修



④ 中堅職員研修

(4) リスク管理 アクシデントの発生状況など

年間アクシデント数254件(前年度：250件)

件数()内は令和4年度

	死亡 0(1)	骨折 8(5)	火傷 2(3)	創傷 21(34)	打撲 16(24)	誤嚥 1(1)
事故の種類 (利用者 関連)	異食 0(6)	服薬関係 10(18)	財物の損失・ 減失40(27)	交通事故 (加害者又は自損) 5(5)	交通事故 (被害者) 1(3)	その他 122(97)
(職員関連)	交通事故 (職員単独) 17(8)	労働災害 6(12)	その他 3(3)			

＊全体の件数は微増。内訳では服薬関係が減少。財物の損失、減失は増加。

(GH西部の水漏れアクシデントの状況)

大枝ホームが入っているマンションの貯水タンク故障に伴う断水が原因で、ホームのトイレタンクの水漏れ事案が発生し、階下の住民宅で大きな被害が発生した。階下の住民から、管理組合の保険で補填されない損害について賠償請求されたが、水漏れの原因は断水であり、当協会には過失が無いことを説明して理解を得た。なお、ホームが被害の発生元であること、今後もホーム運営に協力いただく必要があることから見舞金を贈った。

＊その他、各事業所では、自然災害や感染症発生時の業務継続計画(BCP)を策定した。



(5) ICTを活用した取組

- ・支援報告管理ソフトVitaをヘルパーにも本格導入した。報告書記入の簡略化が図れ、内容の検索、閲覧など利用者情報の共有もスムーズとなり、業務軽減にも繋がった（居宅支援）。
- ・運営メンバー、女性棟メンバーを中心にLINEWORKSを活用し、情報共有に取り組んだ（更生園）。
- ・タブレットを活用し、個別懇談会時に、利用者の活動風景の写真や動画をご家族に視聴いただいた（洛西デイ）。
- ・Googleフォームを活用したアンケートやリスク集計の実施。タブレットを使用した研修動画の視聴、オンライン会議を開催した。
- ・アクシデン報告書にQRコードを貼り付け、「時間帯」、「場所」、「ご利用者」、「内容」などを3か月ごとに集約、分析時に役立てるように試行した（更生園）。
- ・一昨年度から職員室のフリーアドレス化を導入。「整理、整頓、清潔」を維持、意識した（更生園）。
- ・夜間見守り機器「眠りSCAN」の継続的な活用により、高次脳機能障害利用者の不調時の体調管理に効果があった（療護園）。



6 専門性を生かした最良の支援を目指して

(1) 各所属での虐待防止に向けた取組

- ①虐待防止委員会では、職員アンケートをGoogleフォームで作成し参加しやすく、結果の分析を活かし、日々の支援目標を検討し毎月ポスターで掲示することに取り組んだ。支援者として、毎月、目指すべき共通テーマが見える化された(療護園)。
- ②虐待防止委員会で、毎月、虐待防止に関する意識づけとなるよう標語を職員室に掲示した(例、「忙しい時ほど落ち着いて」、「笑う門には良い支援」など)(授産園)。
- ③身体拘束・行動制限について、少人数単位での研修を複数回実施した。
「支援を振り返るチェックシート」を実施。チェックシートに3～5分程度の研修動画「(1回目)不適切支援について」「(2回目)感情労働について」を貼り付け、アンケートが形骸化しないように工夫をした(更生園)。
- ④身体拘束の適正化について、スピーチロックに関する研修動画視聴を行い、普段、行っている行動を制限するような言葉がけの見直しを行った(洛西デイ)。
- ⑤虐待防止アンケートの中で、支援課題だけではなく、周りの職員が行なっている「良い支援」についての設問を作り、回答内容を全体に共有することで、職員のモチベーションや良い取組への意識に繋がった(コスモス)。



(2) 各事業所での支援実践から

- ① 新たな感染症対策として、入院した利用者がカルバペネム系抗菌薬薬剤耐性菌の保菌者であると判明。退院後の支援体制の検討が必要となり、全職員対象にウェブにて京都桂病院感染管理認定管理士の研修を受け理解を深めた(療護園)。
- ② 歯科診療や歯科衛生士による口腔ケアにより歯や口腔内の健康を押し進め、誤嚥性肺炎や感染症の予防に取り組んだ(大原野の杜)。
- ③ 「PECS (絵カード交換式コミュニケーションシステム)」に取り組まれている利用者については、これまで日中活動場面に使用を限定していたが、今年度より、生活場面でも活用できるようになってきた(更生園)。
- ④ 個別支援計画のさらなる充実を図るため、“利用者にハッピーを届ける!”を合言葉に支援計画の作成に力を入れた。例えば、旅行やコンサート、スポーツ観戦など少し特別感のある休日や余暇の過ごし方の充実につながった(グループホーム西部)。





⑤ 女性利用者1名が、かねてより交際していた方と入籍し、新生活のため退去され、他府県へ転居された。転居先でも福祉サービスが利用できるようにサポートを行い送り出した（グループホーム西部）。／3名の利用者の一人暮らしの実現を支援した（グループホーム北部）。

⑥ 強度行動障害の利用者に適切な支援を行なうため、2名の職員が強度行動障害支援者養成研修を受講した。視覚支援を実施し見通しの持ちやすいコミュニケーションに取り組んだ。重度支援加算Ⅱの算定もでき、給付費収入も大幅に増加した（洛西デイ）。

⑦ 日々の活動場面や行事などへの参加がスムーズとなるよう文字カードや絵カードを活用した視覚化を意識した支援に取り組んだ（すずかけ）。

⑧ 臨床動作法の取組を月2回実施できた。立ち上がりが安定してきた方や、就寝時に仰向きで眠れるようになった方など効果がみられた利用者もいた（コスモス）。

⑨ 事業所の様子を発信するホームページブログを積極的に更新した。写真が得意な利用者が撮影した写真も掲載することで役割を感じ喜んでいただけた（コスモス）。

Art



⑩ 利用者の陶芸作品や油絵など作品展を2回実施した。また、とっておきの芸術祭では、陶芸部門で京都府知事表彰1名、優秀賞2名が選ばれた。他、絵画では知福協のカレンダーに選ばれるなどの評価が励みになっている（授産園）。



⑪ 嘱託医による健康相談では、「健康に関するクイズ」として、花粉症、熱中症に関する学びや、歯ブラシの選択や唾液の大切さ、「あいうべ」体操の方法などを学んだ（紫野授産所）。

⑫ 事業の魅力をInstagramで発信してきた。開始から3年間でフォロワー（投稿内容を見られるように登録してくださった方）が800人を上回った。昨年度からは200人増（紫野授産所）。

⑬ 就労移行のカフェ業務について、「全ての業務を利用者ができるように」「全ての商品を利用者が作れるように」という視点で環境を整え支援にあたった。また、カフェ会議で、メニューについて意見を聞いたり、ヒヤリハットを出し合う場を設け、より主体的に仕事に参加し、やりがいや難しさを感じられるように心がけた（花水木）。

⑭ 指定管理期間終了に伴う公募にて、就労継続B型との多機能事業所への変更提案が採用され、事業者としても令和12年末まで選定された。就労移行単独では、利用者確保の困難性があったが、今後は運営の安定化を図っていきたい（桂授産園）。

⑮ 業務委任契約を結んでいる職員と連携し企業開拓を実施し、多くの実習機会を提供し、就職者数も平成27年度以降で一番多い実績に繋がった（桂授産園）。

	令和4年度実績	令和5年度実績
花水木	1	1
桂授産園	4	8

（花水木、桂授産園は、基本2年間の就労トレーニングを経て企業就職へ送り出す就労移行支援事業所）

①⑥ 令和5年7月から、「京都方式（児童の入園に際し児童福祉センターが仲介する制度）」が廃止された。保護者からの直接連絡による問い合わせや契約へ、通知から1ヶ月程度での急な変更であったが、以前より、新規受入のためのアセスメント枠を設けていたこともあり、即座の対応ができた（きらきら園）。

同内容で丁寧な調整に努めたが、希望される全員には入園頂けず、待機をお願いするケースもあった（ポッポ）。

①⑦ 相談支援専門員を専任で1名配置しているが、卒園児の利用が昨年度の4名から18名へ大幅に増加した。保護者支援の必要から在園時からの利用継続と、就学後の新たな相談もあった。放課後デイ、移動支援、ショートステイなど複数のサービス機関との連携も広がってきている（きらきら園）。

①⑧ 言語聴覚士による言語相談の対象を未就園児にも広げた。保護者のニーズにも合致し、不安や疑問に答えていくことができ、日々の子育てに活かしていただくことができた（ポッポ）。

①⑨ 機能訓練と学習療法の満足度は概ね良好であったが、会話や交流に関する要望が複数あったことから、職員が加わって会話を盛り上げるなどの工夫をおこなった（通所向日葵）。

②⑩ 管理者の退職により事業を7月から一時休止した。退職時期までに主任介護支援専門員を獲得できるよう募集を行っていたが、難航した。秋に入り採用目処がたち、令和6年度からの再開が可能となった（居宅向日葵）。



な！：lemonadestandkyoto、他51人
ukoubou【さくさく市チラ見せ！】



♡ ◯ ▼ ...
いいね! : sakusakukoubou, 他 21人

②② 就職してから1年経過後の定着率は93%となり、昨年度より3%上がった。20周年企画の中で、例年より余暇企画が多かったこともあり、参加者の変化に気づくタイミングも多く、対応がスムーズにできたことも大きかった（就業・生活支援センター）。

②③ 特徴的な新規ケース例として、事故や難病の発症に伴う介護保険と障害サービスの重複利用の方からの相談が増加した。その他にも社会とのつながりが希薄な当事者および家族からの相談など、支援センターが持つ情報ネットワークやケースマネジメントの力量が問われるものであった（うきょう）。

②④ 虐待関連の困難対応、親元を離れての一人暮らし支援、障害者同士の夫婦と世帯の課題へのコミュニケーション支援、他、医療的ケアの必要が生じた方への在宅での生活の維持に向けた関係機関との協力体制の整備などに取り組んだ（らくさい）。

②⑤ 京都市児童福祉センターと連携し、半年間の継続した評価プログラム（特性アセスメント）を実施。保護者が子どもの障害特性を改めて整理し、家庭、学校、地域などでの支援につながった（かがやき）。

②⑥ SDGsに関する取組を行った。

・就労B型のガーデニングチームでは、上賀茂神社のあおいプロジェクトに参加し、フタバアオイを育てる活動を行なった（花水木）。

・ペットボトルキャップの仕分け、アルミ缶のリサイクル活動を継続して実施。地域の自治会に配布する回収チラシには利用者の創作品を月ごとに紹介する工夫を行った（更生園）。

・北福西の市営住宅を活用している洛西ホームでは、月1回の棟の一斉清掃に利用者と世話人が毎回参加した。地域住民との顔のつながりも生まれ、頼り頼られる関係性が維持できている（GH西部）。

・協会職員からの繋がり、下鴨中学校のPTAに対してベルマークの寄贈を行った（コスモス）。

・食品・資材などのロス削減として、廃棄量計算を継続（焼菓子の廃棄は昨年度比3,280g減に）。レジ袋有料化にともなうプラスチック製品流通抑制として、バイオマスレジ袋（自然由来素材30%使用）を継続した。

・貧困問題の解決に寄与：製菓の原材料として、適正価格で取引されるフェアトレードの黒糖やココナッツシュガーを使用した商品の製造・販売を継続。また、新たにフェアトレードのコーヒーを使ったコーヒークッキーを開発した（紫野授産所）。



「未来をかえるクッキー」考案



プラスチックごみを削減できる缶入りクッキー「未来をかえるクッキー」を考案した同志社小の児童ら（京都市左京区・同小）

「ごみを食べた生き物たちに大変なことが起きていると知ってほしい。川や海の生き物を守ろうと、同志社小（京都市左京区）の児童らがプラスチックごみを大幅に削減できる菓子パッケージの開発に挑戦した。」

左京・同志社小児童 近くの店が協力

プラごみ削減へ菓子包装、缶に

売り出し好評 「気をつける契機に」

昨年度の同小栽培飼育委員会の5、6年生による取り組み。校舎西側を流れる岩倉川の生き物などを飼育しており、活動で川へ出かけた際に菓子のプラスチック包装が多く落ちていたことに気づいたという。同じ頃、プラスチックのアップサイクルを行う企業からプラスチック不使用の菓子の開発依頼も届いたことから、児童らはプラごみが川や海の生き物に与える影響を学習、問題への理解を深めた。

プラごみを極力出さない菓子のパッケージを検討した児童らは、市紫野障害者授産所（北区）が運営する焼き菓子店「さくさく工房」に協力を呼びかけ、通常はプラスチック袋で包装している同工房のクッキーを缶に詰めた「未来をかえるクッキー」を考案した。みんなで試食して選んだ抹茶やココアなど5種類のクッキーが計15枚入っている。

缶は川や海の生き物たちのイラストをあしらひ、メッセージカードも付けた。イラストは児童の絵が基となっており、メッセージカードの内容も自分たちで話し合ってきた。2月下旬に1缶800円で200缶を売り出したところ、好評で、今冬にも第2弾の発売を目指している。6年楠谷華子さん（11）は「プラスチックによって死んでいる生き物が身近にいる。プラスチックごみが出るものを買わないように気をつけてもらうきっかけになれば」と話していた。

（天草愛理）

2024.5.14. 京都新聞 朝刊



（紫野授産所）

令和6年能登半島地震
災害義援金募集企画

第1回 北山ふれあいセンター
フリーマーケット 開催決定

2024.1/30(火)～1/31(水)

会場：1階研修室C

このたび、能登半島で発生した地震は、甚大な被害とともに、復興に向けた長期化の様相を呈しています。

被災された皆様への応援の一環として義援金の協力を呼び掛け各事業所でご協力いただいているところですが、楽しみながらより多くの義援金につながないかと、このたびフリーマーケットを開催することとしました。

ぜひ、ご自宅では不要になったけど、ぜひ使ってもらえたらというものを持ち寄っていただき（家のお掃除ができ、欲しいものが手に入りWin-Win）、その収益を全額 義援金としてお送りしたいと思います。

この主旨に賛同頂ける方は、ふるってご参加ください。お待ちしております。

主催：北山ふれあいセンター所長一同



家庭の不用品を集めフリーマーケット
売り上げの全額を義援金に
（北山ふれあいセンター管内の事業所）